

はつとん weekly(校長室より②)

世界の仕組み

先日、ボニー・ガルマスという方の『化学の授業をはじめます。』という小説を読みました。1960年代を舞台に、才能ある女性化学研究者が、女性であることによる偏見に振り回されながら、テレビの料理番組で独特のスタイルを貫き、自己の人生を切り拓いていくという内容です。その主人公の女性は、まっすぐで、前向きで、どこかピントがずれているところもあって、苦悩を抱えながらも軽快かつ痛快に日常を過ごしていきます。世界中で大ヒットになった作品で、アメリカでは、『レッスン in ケミストリー』というドラマにもなったようです。割と長い小説でしたが、訳がこなれているせいかあつという間に読み終えることができました。その本の中で、主人公が次のような言葉を発している場面があります。

「化学を理解すれば、世界の仕組みが分かるようになります。」



この言葉だけで、ドキドキしませんか？

化学に限らず、数学にしても、物理にしても、基本的な知識の理解は、その学問そのものを理解することに導いてくれます。しかしそれだけではありません。日常から目をそらし、科学の世界だけに留まろうとする姿勢を取らなければ、世界の成り立ちを感じることができ、そのことから日常の理不尽な仕組みとの比較も生まれてきます。学ぶことで、日常を見直す、捉えなおすということがおこります。

世界は不思議に満ちています。不思議なことは、考えるということに我々の気持ちを向けます。考え続け、時に調べたり、議論したりすると、不思議の中に必然のような仕組みが見えることがあります。もしその不思議がすべて自分の中で納得いくと、今度はその美しさに驚かされます。これが、世界の仕組みを理解した瞬間なのだと思います。そのような過程をたどることでしか見ることのできない景色です。そして、その隠れているかのような美しさは、努力さえすれば誰でも見ることができる公平さを持っています。もしその過程を体験すると、自分自身の物の見方、考え方に影響を与え、日常に変化を与えます。日常の変化は、生き方の変化です。

学ぶことは、世界とつながっていて、もちろん日常ともつながっていて、自分の人生ともつながっている。まさに、学ぶことは生きることなのだと思います。

学校は、さまざまなことを学ぶ場です。少し感じる力を発揮すると、時間も空間も超えて世界というものと自分とを関係づけることのできる素敵な場所です。

大切に日々の学校生活を過ごして欲しいと思っています。